
イタリア・アルス国際製靴学校研修報告書

(株)ティーアンドティーインターナショナル 佐久間 純

1. 研修課題

- (1) 靴モデル製作上の形状的技術問題の学習
- (2) 男性用、女性用の多種のクラシック及びスポーツ・モデルの分類的学習
- (3) 多種の工程に従い、初歩から高度のモデル及びライニング処理
- (4) 総合概念（モデル別）の学習
- (5) 皮質に従った上甲準備と裁断
- (6) 海外靴専門店、見本市の視察及び動向の把握

2. 研修内容

(1) 授業スケジュール

パターンメイキングコース

期間：9月2日（月）～11月29日（金）全13週間

第1週目：理論

第2～9週目：理論・型紙作成

第10週目：工場視察（タンナー、メーカー計4社）

第11～12週目：卒業制作

第13週目：卒業試験

(2) 週間スケジュール

月曜日～金曜日 9：00～13：00、14：00～17：00

土曜日、日曜日、祝日 休講

(3) 授業の進め方

- ① 授業の進め方は、長期に亘る体系的な研修と反復練習が基礎となっている。最

初の1週間は理論のみ、2週目からは、毎日9：00～10：30の約1時間半程靴に関する理論等の講義があり、その後に実技を学習した。

② 実技の進め方

- ・ 講師が、生徒全員を机の周りに集めて、制作上の注意点等を説明しながら紙型を作成していく。（PCを使い、スクリーンに写しての説明もあり）
- ・ 受講生は、それに習い各自で紙型を作成していき、完成したものの出来具合を見てもらい、必要に応じて提出した。
- ・ パターンメイキングコースの最終週には卒業試験が行われた。

(4) 講義内容

- ① 理論（靴及び靴製法に関するさまざまな知識の習得）
 - ・ 靴の種類、構造、製法（製法別特徴、用途及び留意点）
 - ・ 木型の分析とつり合い（部位別名称、数値測定法公式）
 - ・ 欧米サイズの換算方法
 - ・ 紙型調整とネスティング・カッティング技術
 - ・ 基本的ルールの学習
 - ・ 各国の靴工場事情
- ② デザイン画作成
 - ・ デザイン画の描き方の基本原型の取

り方

- ・ 紳士、婦人の様々な靴種の基本モデル及び応用デザインの型紙作成
- ③ 靴種に沿ったパターンメイキング
 - ・ ダービー、オクスフォード、パンプス、サンダル、ローファー、モカシン、ブーツ
 - ・ 靴種毎にアッパー、紙ライニング、仕様封筒を作成
- ④ 革見本市 (LINEA PELLE) 視察 (自由参加)
 - ・ 先生の引率で主要な革メーカーのブースを視察
- ⑤ 工場見学：ミラノ市郊外
 - ・ ラストメーカー (FORMITICIO ROMAGNOLO社)
 - ・ ヒールメーカー (ELITE PLASTIC社)
 - ・ タンナー (STEFANIA社)
 - ・ 靴メーカー (CHRISTIAN LOUBOUTIN社)
- ⑥ コンペ用デザイン画作成
 - ・ テーマ : Gea Gomma社ナチュラルバーソールを使い、紳士靴、婦人靴、子供靴から選び、デザイン画1点提出
- ⑦ 卒業制作
 - ・ 木型、ソール、ヒールを自由に選び、自らのデザインでプロトタイプを作成
- ⑧ 卒業試験
 - ・ 筆記 (イギリスサイズ、アメリカサイズ、フランスサイズの換算方法、型紙作成の基本ルール、靴種の判別など)
 - ・ 実技 紳士靴か婦人靴を選び、くじで引いた番号のデザイン画の型紙を作成
 - ・ 面接 講師2名から、作成した紙アッパーやレポート、講義内容について、口頭で質疑応答)

3. 研修成果

イタリア、ミラノにあるアルス国際製靴学校のパターンメイキングコースを受講し、3ヵ月(9月2日～11月29日)靴に関する技術と知識の研修を受けました。

クラスメートは17人(女性11名、男性6名)で、国籍は、イタリア、アメリカ、中国、スウェーデン、インド、スペイン、メキシコ、スイス、香港、ロシア、ブラジル、日本。クラスメートの約半数は靴業界経験者で、彼らとの情報交換は、大変興味深いものでした。

授業は、基本は英語で行われます。先生によって、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、中国語が話せるので、希望すればこれらの言語でも説明が受けられます。私は3ヵ月間、英語で学んだことにより、靴の専門用語を英語で習得することができました。

第1週目は、イントロダクションの授業でした。靴種、製法、革の種類など、靴の基本的な知識を学びました。動画や写真、時には実物を使って丁寧に説明されます。イタリアを始め、中国やメキシコなどの各国の工場の様子を知ることができました。

第2週目からパターンメイキングの授業が始まりました。始めに先生が説明と共に





手本を示し、その後に生徒がそれぞれのペースでパターン作成します。1日2～3つのパターンをこなし、作業の早い生徒は、さらに追加でパターンを作成します。毎週月曜は、前週に学んだ靴種のデザイン画を渡され、先生の手本無しでパターンを作成する月曜テストというものがありません。月曜テストは、テストと言う名の復習で、この月曜テストがあることで、前週に学んだパターンをしっかりと覚えることができます。毎週金曜日には、その週に勉強した靴種の仕様封筒を作成し提出します。封筒の表には、靴のスケッチと共に詳しい仕様を書き込み、封筒の中にアッパーとライニングの裁断型を入れます。この仕様封筒も1週間の授業を復習できる内容になっています。

毎朝1時間半は、パターンの授業前に理論の勉強をします。内容としては第1週目のイントロダクションの授業を更に深く掘り下げたものですが、先生が繰り返し強調していたのは、どのように商品のコストを抑えるかということでした。コストをカットする上での妥協点、また絶対に妥協すべきでない点。実践で使える知識ばかりで、次の商品企画から実践したいと思っています。また、パターン作成する上でもコストの問題がとても重要だということを学びました。

靴メーカーの視察では、今世界で最も人気のある婦人靴ブランドのクリスチャンルブタンの工場へ行きました。日産1000足の工場で、いくつもあるルブタンの工場の中では、小規模だそうです。特に印象に残っているのが、仕上げ場で働く人の多さです。この人数の多さには先生も驚いていました。従業員ひとりひとりがとても丁寧に、最高の状態に靴を仕上げていました。授業でもラグジュアリーブランドはクオリティーコントロールを重要視していると教わりましたが、その通りの光景を見ることができました。

卒業制作では、それまでに習得した技術と知識をフルに使い、木型選びから、デザ



イン、パターン、革の裁断まで先生のチェックを受けながら自分で行いました。使用する革は、視察へ行ったSTEFANIA社で提供して頂くというとても贅沢な卒業制作でした。製甲から底付けまでは、熟練したイタリアの職人に依頼しましたが、出来上がりまでの過程には、想像しなかったようなトラブルも発生し、生徒全員が実際の靴づくりの難しさを痛感しました。

アルス国際製靴学校は、ミラノ北東部に位置し、街の中心地まではトラムで10分程です。ミラノにあるモンテナポレオーネ通りやスピーガ通りには世界中のラグジュアリーブランドのブティックが並び、ウィンドウの靴を眺めているだけでも勉強になります。滞在先は、学校と同じ建物内のレジデンスだったので、通学時間がゼロという素晴らしい環境でした。近くにはセンピオーネ公園という大きな公園があり、散歩やジョギングを楽しむこともできます。スーパーやレストランも徒歩5分以内であり、生活する上で全く不自由は感じませんでした。ミラノでは、日本食がとても人気があり、クラスメートとよく近所の日本食レストランに食事に行きました。

9月の3連休には、アメリカ人のクラスメートとミラノから電車で2時間程のサン



タマリアリグレとポルトフィーノという海沿いの街へ旅行に行きました。ヨーロッパではとても人気のあるリゾート地だそうです。昼間にビーチサンダルで歩いていた女性達が、夜になるとドレスアップをしてハイヒールで食事に出掛けていく姿がとても印象的で、欧米の靴文化に直接触れることができたような気がしました。

今回の研修は、靴に関する技術、知識の習得に加えて、世界各国のクラスメートと交流することにより様々な文化を吸収し、国際的な感覚を身につけることができました。毎日が新しい体験の連続で、日々自分の成長を感じられる大変充実した3ヵ月でした。

この素晴らしい体験をたくさんの方々ができるように、この研修制度が継続されることを強く願います。このアルス製靴学校での貴重な体験を糧に、今後も靴の技術と知識を探求し続け、日本の靴業界の発展に貢献していきたいと思います。